

アモス 7:10-17 – しかし、主は。

この説教では、南部の羊飼いとイチジクの木のカットワーカーから、神によって預言者として選ばれた男であるアモスの背景に基づいて、アモス 7:10-17 のメッセージを共有します。このテキストの中心テーマは「しかし、主は」です。私がこれらの言葉を選んだのは、アモスがユダのテコアの地でイチジクの木のカットワーカーをしていた素朴な羊飼いだっただからです。しかし、彼はアマツヤのような人と比べて、特定の学校や神学校の学位を持っていないかもしれません。「しかし、主はこういわれる」この言葉によれば、ミニストリーのためにアモスを呼び出し、それから、彼を、繁栄し偶像崇拝のイスラエルに導き、そこで彼は、神の裁きと憐れみの言葉をイスラエルに語りました。私の、アモスに関する説教は、神が普通の人の生活を、預言者としての生活に、神がどのように変えることができるかについての励ましのメッセージでなければなりません。

この説教を聞く者に対する目的

この説教の目的は、あなたが誰であろうと、どのような背景を持っていようと、神がアモスを使って北のイスラエル王国に神のメッセージを説教したのと同じように、あなたを神の王国のために用いられることを示すことです。管理人、家政婦、ブルーカラー労働者などの低い地位または謙虚な基準でもって、神が彼らを使用し、神の王国の器にすることができる時、人はどのように考えますか？ 主を愛していると主張しながらも世俗的な偶像礼拝の中で生活している神学校の学位や、特定の博士号を取得していないのに、どうして神はこの種の人々を使うことができるのでしょうか？

またハンナは祈りの中でこう言いました。[主は困窮者を灰の山から持ち上げて、彼らを王子と一緒に座らせ、名誉の座を継承させます。地のもろもろの柱は主のものであり、その柱の上に世界を置かれたからです。] そしてまた、マリアは、ルカによる福音書第 1 章 52 節の歌の中でこう言っています。[彼は強大な人々を王座から引きずり下ろし、謙虚な地所の者たちを高めた。]この聖句は、神が謙虚で地位の低い人々を神のミニストリーに用いて、そのミニストリーに奉仕する主を賛美することを教えています。アモスとアマツヤの話し合いに関するこのような箇所について、皆さんに学んでいただきたい 3 つのポイントを以下に示します。

ポイント 1

アマツヤは、アモスが王とイスラエルに対して陰謀を企てていると非難しましたが、主は迫害と告発に対処するために、アモスと共におられました。

アモスは、物質的な富と成功を収めた人物であるアマツヤ（アモス 7:10-13）から告発されました。アマツヤはおそらく、ベテルで政治運動を行った有名な大祭司でした。アモスが神の裁きのメッセージを説教していたとき、アマツヤは、人々を悩ませている、アモス

が共有したメッセージについてヤロブアム 2 世王に一言送りたいと思って当惑しました。アモス 7:10-13 は次のように述べています。「それから、ベテルの祭司アマツヤは、イスラエルの王ヤロブアムに人をつかわして言った、「アモスはイスラエルの家の中であなたに対して陰謀を企てました。土地は彼のすべての言葉に耐えることができません。」なぜならアモスはこう言った、『ヤロブアムは剣で死に、イスラエルはその国から追放されなければならない。』アマツヤはアモスに言った、「先見者よ、ユダの地に逃げて行きなさい。そこでパンを食べ、そこで預言し、ベテルで再び預言してはならない。ベテルは王の聖所であり、王国の神殿だからである。」

この説明では、アマツヤが神学校で博士号を取得した人物として知られており、彼の時代に有名な司祭または特定のラビになったことがわかります。アマツヤのような男にとって、彼の言葉は王が耳を傾けてアモスを逮捕するのに十分な権威があると彼は考えました。彼の唯一の関心事は彼の名声と富と地位だったので、彼は、アマツヤと同じ経験レベルを持たない南部人であるアモスに、イスラエルを離れてユダに戻り、彼の地域で商売をするように命じる力があると考えました。司祭として。アマジヤは権力者を使ってアモスを黙らせ、アモスではなく、彼と王ヤロブアム 2 世が権力を持っていることを示しました。しかし、主は試練のときパウロと共におられたように、アモスと共におられました。

テモテ第二 4:17 で、パウロはテモテに次のように書いています。“私の最初の弁護では、誰も私を支持してくれませんでした、誰もが私を見捨てました。どうか、そのことで彼らが責められることはありませんように！ しかし、主は私のそばに立って私を強めてくださいました。私を通してメッセージが完全に宣言され、すべての異邦人がそれを聞くことができるようになりました。それでライオンの口から救われたのです。”パウロと同様に、アマツヤがアモスに立ち向かったとき、神はアモスとともにおられました。アモスがアマツヤのような人々からの迫害に直面するためには、われわれも大胆であることを忘れないでください。そのため、私たちが福音を分かち合い、聖なる生活をしているときに、迫害を受けますが、主は私たちとともにおられ、決して私たちを見捨てません（ヘブル 13:5）。

ポイント 2

アモスはユダのテコアに住む平民の南部人で、イチジクのいちじくの木を栽培をしていましたが、主はアモスを畑から連れ出し、イスラエルの北王国で奉仕させました。

アモスの背景についての簡単な回答を読みました。アモスはアマツヤの告発を聞いた後、アモス 7:14-15 でアマツヤに答えました。「そこでアモスはアマジヤに答えて言った、「わたしは預言者でも預言者の子でもありませんでしたが、羊飼いであり、いちじく桑を栽培するものだ。しかし、主は群れに従うことから私を連れ去り、主は私に言われました」アモス 7 章 14 節から 15 節には、このように書かれています。『行って、私の民イスラエルに預言しなさい。』アモスの反応は、謙虚さと自己弁護の反応として説明できますが、その答えは、アマツヤのような人々が予想したよりも深い意味を持っていました。

アマツヤはおそらく、高い地位と名声を持った人物であり、彼の考えでは、彼のような者には、より並外れた特権があるだろうと考えていました。南部の神学校などの有名な神学校から博士号を取得した神学者のように。かれの神学は聖書の正統性を教えていません。アマツヤは、ユダに戻って生計を立てるように言うことで、彼が仕事のボスであることをアモスに伝えることができると考えました。

アモスはおそらく、神学学校にも通わず、トーラー（律法）の博士号も取得していない人物でした。しかし彼の応答では、彼は羊飼いであり、イチジク桑の栽培者であり、預言者でも、預言者の息子でも、預言者の弟子でもありませんでした。現代のアモスを知りたい人にとって、アモスは南部出身の田舎者と言えます。おそらくアモスはアラバマ州のヒルビリーのようなもので、神学校には行かず、農業の仕事だけが得意で、バンジョーを趣味で演奏する 5 年生の教育のみを受けていたでしょう。ただし、アモスの重要な点は、会話を根本から変える会話の 3 つの単語です。この三つの単語は「しかし主は」です。アモスは、自分がかつて羊の世話をし、イチジク桑の栽培者であったと言いましたが、主は彼をイスラエルでのミニストリーに召され、イスラエル人に偶像崇拜のライフスタイルから神に立ち返り、誰か重要な人物になるように呼びかけました。神はアモスを預言者にさせ、アマツヤに、神は彼のような平民を使って主に仕えることができ、誰も、彼が神のメッセージを説教するのを妨げることはできないことを思い起こさせました。アモスは、主のゆえに何者かになった何者でもない者でした。私が会った人々の中には、アモスのように平凡な人々でしたが、神がミニストリーのために彼らを連れてきたときに神の民になったのと同じような生活を送った人がいます。

その人は、2014 年に亡くなったトーマス・モレノというウルグアイのバプテスト教会の牧師を思い起こさせます。しかし、彼は神学校を卒業したり、非正統的な神学を教えているプリンストン大学やイエール大学の教師であるアマツヤのような性格を持つ神学校宣教師のような高等教育を受けていませんでした。モレノ牧師は自分の農場でメッセージを忠実に説教し、繁栄したイスラエル王国でアモスが行ったように、福音のメッセージを説教するために彼の地域からモンテビデオの大都市に通いました。謙虚な始まりを持っていたにもかかわらず、主はモレノを無名人として土地から連れ出し、有名人になりました。トーマス・モレノは現代のアモスでした。

アモスのように覚えていたもう一人の人物は、アラバマ州出身の南部人でした。彼の名前はブライアン・ペインで、エイモスと同じく南部出身の牧師です。彼はアモスと同様に、ボイス カレッジで説教の教師を務め、人々を忠実に訓練し、北の人々、特に私に、悔い改めてイエスを信頼するよう説教しました。彼のメッセージと証しは、説教と神学においてボイス大学の将来の牧師として主に忠実に仕えることを私たちに与え続けました。彼は、ケンタッキー州フィッシャービルファースト バプテスト教会で主任牧師を務めました。ブライアン・ペインは、アラバマ州レイクビュー・バプテスト教会の自宅に戻り、現代のアモスとして忠実に説教を続けています。

もう一人、日本で宣教師の同僚で、ブライアン・ペインに似た人を紹介したいと思います。彼の名前はマーク・バスビーです。彼はアラバマ州出身で、元チームリーダーとして国際伝道委員会で奉仕しており、現在は大阪チームのトレーニングの同僚です。彼は日本語で牧師とつながり、説教に行くたびにバンジョーを持って行き、キリスト教のブルーグラスを混ぜたゴスペル音楽を歌いながらバンジョーを使っていました。マーク・バスビーは、神が日本で奉仕するように召された南部人として主に忠実に奉仕しており、私たちが学ぶべき現代のアモスであり続けています。

結論として、この 3 人の忠実で敬虔な男性の背景を理解すると、神は平民の生活を変え、彼らを福音の奉仕者に変えることができます。したがって、私たちは皆、神の栄光のために国々への神のメッセージを預言するように召されているので、神は私たちを福音のために用いることができます。

ポイント 3

アマツヤは自分がアモスとイスラエルの人々に対する権威を持っていると思っていましたが、主はアモスを通して、自分がイスラエル全土に対する究極の権威であることをアマツヤに証明されました。

最後の 2 節を読むと、アモス 7:16-17 を読みます – ですから、主の言葉を聞きましょう。

「あなたは言う、『イスラエルに対して預言するな、イサクの家に対して宣べ伝えるな。』それゆえ、主はこう言われる、『あなたの妻は町で遊女となり、あなたの息子と娘は剣に倒れ、あなたの土地は測り線で分けられる。あなたは汚れた地で死に、イスラエルは必ずその地から亡命する。』アモスからのこれらの最終的な応答を読むと、イスラエルの権威が誰であり、その権威が神であることがわかります。神が仕えることを選んだ人を、その人の経歴に基づいて判断してはならないことを理解できます。そのため、アモスはアマツヤにこの恐ろしい反応を示しました。アモスの反応は、私たちへの警告に違いありません。なぜなら、アマツヤが運命に直面したように、私たちのプライドが私たちのステータスに基づいて私たちを食い尽くす可能性があるからです。

アマツヤとイスラエルの不従順のために、アマツヤの妻が街で売春婦になることがわかります。次に、彼の子供たちがアッシリア人の剣によって倒れ、ベテルを含むイスラエルが征服されると彼の土地が分割されることがわかります。最後に、アマツヤ自身が流刑に処された後、汚れた地で死にます。これらの裁きの言葉は、文の最後の言葉から後に真実となり、紀元前 722 年にサルゴン 2 世が新アッシリア帝国のためにその地域を占領したとき、イスラエルの北王国は破壊され、神の預言の言葉が実現しました。これらの言葉は、アモスがイスラエルの権威としてのイスラエルの運命を警告するために神が遣わされた人物であったことを結論付けています。

アモス 7:16-17 からのアモスのメッセージでは、王、祭司、預言者、共同体ではなく、神だけが神以外のイスラエルに対する権威を持っていることがわかります。神はアモスのような預言者を遣わし、警告だけでなく、悔い改めと憐れみのメッセージも送りました。ア

モス 3:7 は、「主なる神は、ご自分のしもべである預言者にその秘密を明かさずには何も行わないからです」と述べており、アモスは、北イスラエル王国のアマツヤや他の偽預言者とは異なり、真の預言者でした。アモスの権威としての神は、この章の前の節で彼に 3 つのビジョンを示しました。そのうちの 1 つは、イスラエルが悔い改めない限り、イスラエルの運命についてアモスに知ってほしかった、火、イナゴ、および下げ振りで構成されています。アモスは、イスラエルが悔い改めるのを見たいと願っていました。彼は、2 つの幻について主に 2 回嘆願しましたが、神はそれを実現させないと言われました。彼の嘆願の 1 つはアモス 7:2 にありました。[神様、お許してください！ヤコブはどうやって立つことができますか？彼はとても小さいです！主はこれについて容赦されました：「それはありません」と主は言われました。]これらの聖句は、神のみがイスラエル王国の究極の権威であり、神はアッシリア人を通してイスラエルの地上の栄光を奪う権利を持っていたことを説明しています。

神はイスラエルに、イスラエルの時が尽きようとしており、人々は剣によって倒れるというメッセージを持っていました。しかし、主はアモスのような預言者を遣わして、悔い改めと神への礼拝の復帰のメッセージを送り、神の裁きがイスラエルに及ばないようにしました。ヨエル 2:13b は次のように述べています。[彼は優雅で慈悲深く、怒ることに遅く、揺るぎない愛に満ちているからです。そして彼は災害を容赦しません。]アモスは、神がすべてのイスラエル人を滅ぼすことができたかもしれないことを知っていましたが、イスラエルを救う神の憐れみと忠実さに信頼を置いていました。イスラエル人は数え切れないほど神に反抗しましたが、アモスがアモス 9:11-15 で理解したように、神は彼らに救世主がいて、神が彼らの神であり、イスラエル人が神の民になるという新しい契約を持つと約束されました。イエスが来て、その契約を成就したのは、イスラエルの究極の権威として、イスラエル人の間で神の憐れみがあったからです。したがって、アモスの応答を通して神の言葉が実現し、イエスが「天と地のすべての権威が私に与えられた」（マタイ 28:18）と言ったように、神はご自身がすべてのものに対する権威であることを証明されました。

結論

メッセージの中心的なテーマ、主なポイント、目的を振り返って、あなたに尋ねたいと思います。あなたに尋ねたいのですが、あなたは自分が何者でもない、または神があなたをミニストリーに使うことができないと感じたことはありますか？神はあなたと私の罪のために死ぬためにイエスを送ったあなたを愛していることを忘れないでください。イエスを通して、自分の罪を悔い改め、十字架上の死と復活を通してイエスを救い主として信じるならば、イエスが救い主であることを知ることができます。イエスは言われました。[まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしの声を聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は誰でも、永遠の命を持っています。彼はさばきに行かず、死から命へと移りました]（ヨハネ 5:24）。私たちは道に迷い、希望のない罪人でしたが、主は私たちを暗闇からキリストの光へと導き出してくださいました。

誰でもイエスのもとに来ると、その人は罪から救われるだけでなく、聖霊の力によって変えられ、神が彼の土地から畑に呼び寄せたアモスのように、主のために誰かになります。神の預言者になります。神が栄光のためにアモスを用いられたように、イエスの人類への愛によって、神はあなたを栄光のために用いることができます。あなたのバックグラウンド、肌の色、住んでいる家、教育経験、出身国などはありません。もしあなたがイエスの中にいるなら、あなたは変容するだけでなく、キリストの大使として召され、神の目に特別な存在であり、それが第二コリント 5:20 に書かれている理由です。[したがって、私たちはキリストの大使であり、神は私たちを通して訴えています。キリストに代わって、神と和解してください。]アモスが神の大使だったように、私たちは神の栄光のために神の大使になるために選ばれました。ですから、[キリスト・イエスによって上に召された神の賞を得るために、ゴールに向かって進みましょう]（ピリピ 3:14）。